



アトピー性皮膚炎と皮脂欠乏性湿疹の かゆみのメカニズム

① どうしてかゆくなるの？

かゆみとは「ひっかきたくなるような不快な感覚」と定義されています

かゆみの種類としては大きく分けて二つあり

a. 皮膚で感じるかゆみ

b. 脳で感じるかゆみ（内臓の病気や薬の影響で起こる）

例えば、虫刺されや皮膚病によって、皮膚にあるかゆみを感じる

神経が刺激されると、脳にかゆみを伝えます

② かさかさするとなぜかゆくなるの？

皮膚が乾燥すると、皮膚のバリア機能が壊れ、かゆみの刺激が神経に到達

しやすくなります。例えば、髪の毛が触れたり、洋服のわずかな刺激でも

かゆみを感じてしまうことがあります

③ かいたらダメですか？

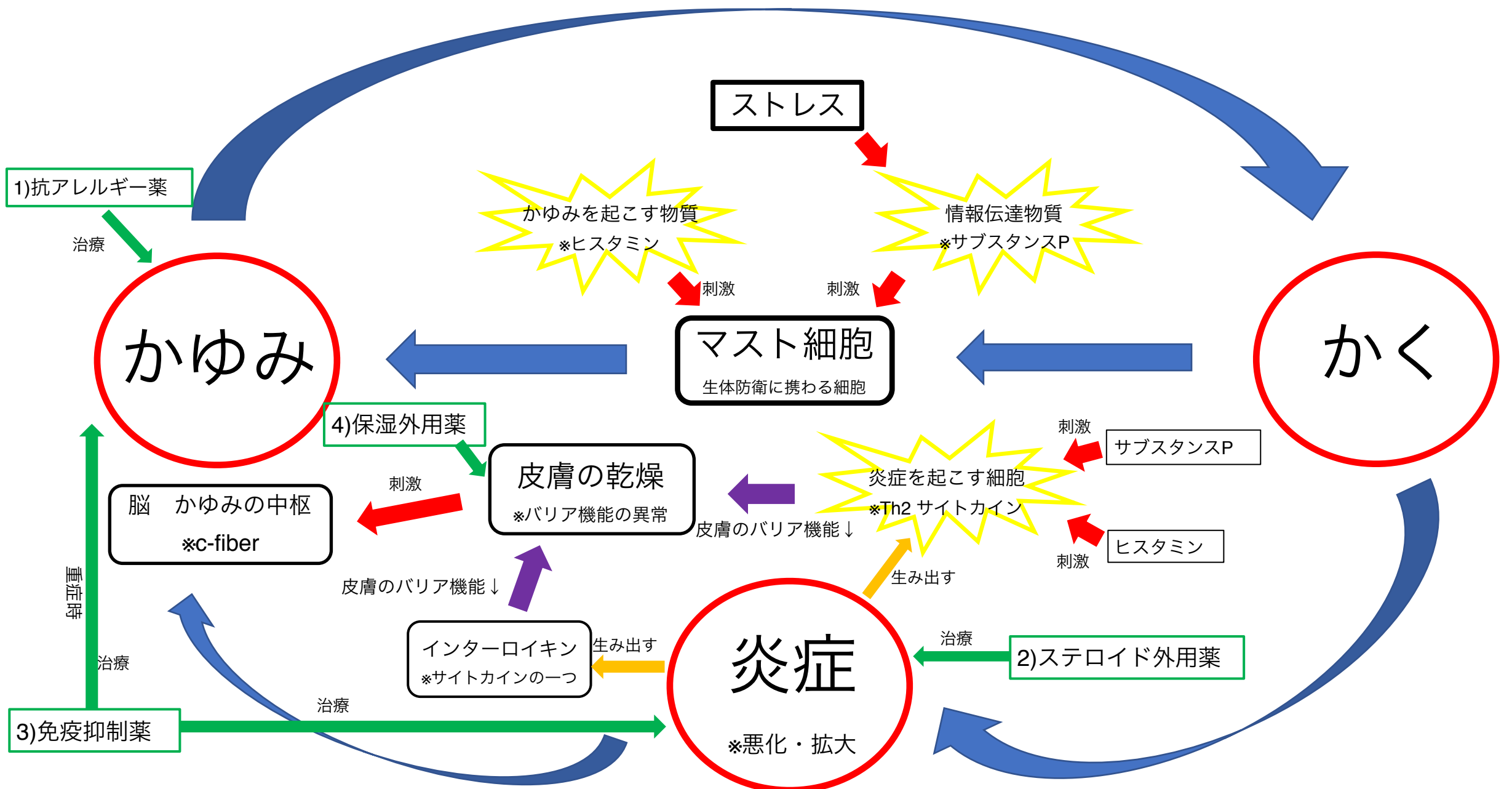
皮膚をひっかくと、皮膚のバリア機能はますます低下し、皮膚病を悪化させるシグナルが皮膚やかゆみの神経から放出されるため皮膚病がさらに悪化してしまいます。

多くの方が困っているアトピー性皮膚炎でも、かいたところは悪化し、手が届かず、かいていないところは悪化しません。

このように、ひっかくことをやめることは、とても



かゆみとひっかきの悪循環図



かゆみとひっかきは上の図のような関係になっています。

はじめに、かゆみを感じるきっかけとなるなんらかの「ストレス」がかかると、ストレスを感じている情報と、かゆみを起こす「ヒスタミン」という物質が、身体を守るための「マスト細胞」を刺激します。

刺激されたマスト細胞の反応が活発になることで皮膚や脳で「かゆみ」を感じる反応が起こります。かゆみに耐えかね、ひっかいてしまうと、ひっかいたところに炎症を起こしてしまいます。

炎症が起きると、皮膚のバリア機能を弱める物質が生み出されるため、皮膚の乾燥が起こります。皮膚が乾燥するとかゆみが強くなり、さらにかきたくなってしまう...という悪循環が生まれます。

この悪循環の中で、かゆみを起こす一番の原因となっていることを探り必要なお薬を使用するのが、かゆみやひっかきを抑える鍵となります。

治療は大まかに分けて4種類です。

上の図の緑の矢印を見ながら読んでいただくと分かりやすいかと思います。

- 1) かゆみが主体の場合：抗アレルギー薬
- 2) 炎症が主体の場合：ステロイド外用薬
- 3) 重症のかゆみ＋炎症の場合：免疫抑制薬による最新治療
- 4) 皮膚のバリア機能低下の場合：保湿外用薬

これらを、患者様の皮膚の状態や症状をお聞きし、最適な治療方法を選択します。かゆみでお困りの方は、是非ご相談ください。